

## 石井研士

はつめい

二〇〇七年（平成十九年）の秋の番組改編時期にあたって、近年恒例の特別番組が組まれた。私が注目しているのは、超能力、占い、心霊など、一般的にはオカルト系の番組と総称してもいい、そういった番組の特集である。

期待に違わず、九月二十三日（日曜日）からの一週間に、三本の番組が放送された。『FBI超能力捜査官 第12弾』（日本テレビ）、『幸せって何だっけ秋の幸せ倍増スペシャル』（フジテレビ）、『ズバリ言うわよ！スペシャル』（TBS）の三本である。すべて二時間枠で、ゴールデンタイムに放送されている。

こうした光景は近年すっかり当たり前になってしまった。べつにおかしいとも思わないだろう。

ところで、二〇〇七年の正月は、例年にまして占い、予言、心霊が飛び交った正月だった。年末の特集から追っていくと、かなりの番組数、放送時間にのぼる。毎年のように繰り返される光景ではあるが、これほどまで頻繁に放送されたことはかつてなかったことだ。

占いによる予言や人生相談、亡くなった子どもや夫の霊との交流、あるいは超能力による行方不明者や殺害犯の捜索を売り物にした番組がすっかり定着している。定着しているということは、視聴者がいるということでもある。

### 第3章 霊のいる風景

表1 年末・年始の非科学的事柄に関する番組（2006年～2007年）

	テレビ局	時間帯	放送時間	タイトル
12月25日	テレビ朝日	19:00～20:58	118分	奇跡の扉 TVのチカラ 特命!世界の超能力者透視捜査・遺体発見スペシャル
12月26日	日本テレビ	21:00～22:54	118分	FBI超能力捜査官第11弾
"	フジテレビ	16:25～17:55	90分	「天国からの手紙」直前!緊急救済SP!!
"	フジテレビ	18:30～20:54	144分	カスベ 江原啓之スペシャル 天国からの手紙
12月27日	テレビ朝日	23:35～00:30	55分	関分太一・美輪明宏・江原啓之のオーラの泉
12月29日	テレビ朝日	21:00～23:25	145分	細木数子の緊急大予言!!いじめ、自殺はやめなさい!今夜、答えをだすわよ!!スペシャル
12月30日	テレビ朝日	18:30～20:54	144分	UFO・超能力・謎の生物・心霊一激突!オカルト魂!!ビートたけしの嵐の大ゲンカ超常現象@ファイル2006
12月31日	フジテレビ	13:00～14:58	118分	細木数子傑作選
12月31日	フジテレビ	19:00～21:00	120分	細木数子の日本のおおみそか
1月1日	テレビ朝日	24:40～25:10	30分	悪魔と天使の07夢占い風水で開運!!恋愛運も大予言SP
1月2日	TBSテレビ	19:00～21:54	174分	新春もズバリ言うわよ!今夜復活!史上最強の占いバトル!超有名人1対1でメッタ斬り!スペシャル
1月3日	テレビ朝日	12:00～14:25	145分	細木数子の大予言Ⅲ
1月4日	テレビ朝日	18:30～20:54	144分	関分太一・美輪明宏・江原啓之のオーラの泉・新春スペシャル
1月6日	テレビ朝日	18:30～20:55	144分	細木数子 vs 日本の歴史 これがホントの話よ!!

オウム真理教による地下鉄サリン事件（一九九五年）をはじめとした一連の事件以降、鳴りを潜めていた霊能者、超能力者、占い師たちは、いまや解き放たれてテレビのなかを大手を振って歩いている。

今年の年末年始に放送された番組の一覧表を作成すると表1のようになる。放送局ではテレビ朝日とフジテレビの多さが目につくが、過去の放送を見ていけば、どのキー局もこうした特集や定時番組を放送していて、NHK以外は大差がない。タイトルが長いのは特集番組にありがちなことだが、とにかく説明口調で、やたらに「！」や「？」が多いのが特徴の一つである。

なぜこうなってしまったのだろうか。日本民間放送連盟（民放連）の番組基準では許されないはずの番組が、こうも堂々と放送されるのはなぜなのだろうか。当然ながら視聴率の問題が思い浮かぶ。しかし、視聴率目当てに放送されてきた番組が「ヤラセ」として糾弾されてきたことは、『発掘！あるある大事典Ⅱ』（フジテレビ）を見てもよくわかる。

とりあえず本論では、こうした状況がオウム真理教事件を経てもいっこうに変わらなかつたことを跡づけることにしたい。ただし、テレビは書籍や雑誌と異なり、いったん放送が終了してしまつたら見る事ができない。それゆえに、テレビ番組欄の限界がつきまとうことを申し述べておきたい。

## 1 擬似科学化するテレビ

### オウム真理教事件で消えた超能力番組

オウム真理教事件のときには、松本サリン事件での誤報道、TBSが坂本堤弁護士インタビュー映像をオウム真理教幹部に見せたことに端を発した坂本堤弁護士一家殺害事件、視聴率のために競ってオウム真理教幹部を登場させたテレビ局の報道のあり方など、テレビをめぐる重大な問題が相次いだ。

こうした問題とは別に、テレビで放送されている超能力番組などが、若者の教団への関心を助長したのではないか

という指摘がなされた。両者の影響関係を明らかにすることはなかなか難しいが、一九七〇年代から九〇年代に放送された一連の超能力関係の番組が、若者を中心としたオカルトへの関心をあおったことは指摘できるだろう。そしてテレビ局は、こうした状況をうすうす感づいていた節が見られる。

オウム真理教の地下鉄サリン事件は一九九五年三月二十日だった。教団の一斉捜査が三月二十二日、教祖の麻原彰晃逮捕が五月十六日である。この期間を境にして、テレビでの超能力番組や心靈番組の扱いは大きく変わる。詳細な一覧表を付けて説明することは別の機会に譲るとして、ここでは、超能力や心靈を扱った番組が、すべてのキー局から見事に消えていったこと、そしてオウム真理教事件を追及する番組一辺倒になった事実だけを指摘しておこう。

そしてほとぼりがさめたであろうと考えた（と筆者には思える）一九九六年初頭から、一群の番組が開始される。気功、そして透視に関する番組である。しかもそれらの番組は、オウム真理教が科学的な装いをまとうとしていたように、気功や透視を科学的に証明できると主張したのである。

#### 科学的番組を装う気功、透視番組

『スーパーテレビ情報最前線』（日本テレビ、一九九六年一月二十九日）では「人はなぜ治るのか？中国の神秘を探る旅」として、気功による麻酔・治療を放送した。さらに日本テレビは、一九九七年十二月十三日に『世界の超人怪奇現象スペシャル』という大がかりな透視番組を放送した。ロシアの超能力者ユーリ・ゴールヌイを登場させ、透視によるビリヤードや車の運転などのパフォーマンスをさせてみせたのである。また、キャサリン・リアにはアメリカで起きたジョン・ベネ殺害事件の犯人透視をさせている。『奇跡体験―アンビリバボー』（フジテレビ、一九九八年一月十日）は、超能力者・三田光一による月の裏側の念写を紹介した。

気功や透視を扱った番組は科学的な装いをとっている。温度が体温以外によって上昇することでエネルギーとしての気存在を証明しようとしたり、人間がもつ不思議な力として透視を紹介している『中村雅俊のセッター知りたーい！知りたがり』（フジテレビ、一九九七年八月二十九日）。透視に関しても検証という形式で番組は始まり、その結果が間違いないことを確認するような作りになっている。

なかには科学的であることを強調するために、わざわざインチキの念写を暴いてみせたり、マジシャンと超能力者

を対決させる番組もある始末である。

一九九六年四月十二日のゴールデンタイムに、TBSで『世紀の透視対決！』が放送された。当時の新聞のテレビ欄には「あのユリ・ゲラーを見破った超能力バスター男が驚異の透視パワー少女に挑戦 金曜テレビの星！「すべては二〇〇人の前で起こった。世紀の透視対決」それはマジックか？それは皆さんが判断して下さい」とある。

番組は、アメリカから透視能力をもつとされる日系の中学一年生の少女と、マジシャンのジェームス・ランディが対決するというものである。番組ではいくつかの実験と称されるものがおこなわれ、最終的に少女の超能力はインチキではないかという雰囲気では番組は終了するが、お決まりのように明確な結論は持ち越される。こうした番組での実験が、研究者がおこなうような意味での実験などでないことは明らかだし、そもそもそうしたことを意図しているわけでもないだろう。

現在科学的には証明されていないが、今後証明されるかもしれないものとして、テレビは次々と非科学的の事柄を取り上げはじめた。ミステリー・サークル、ダウジング、バイ・デジタル・オーリングテスト、臨死体験、胎内記憶、テレパシー、ピラミッドパワー、マイナスイオン、第六感、サイコメトリー、オーブ、退行催眠、前世記憶などが代表的な内容である。『真相究明！噂のファイル 万病を治す奇跡の水は実在する!』（テレビ朝日、一九九八年六月十三日）、『植物にも知能がある』（テレビ朝日、一九九八年六月二十七日）など、番組はさらなる広がりを見せて今日まで続いている。

### 血液型性格判断とBPO

二〇〇〇年ごろから血液型を扱った番組が頻繁に放送されるようになった。

非科学的の事柄のなかでも、特に関心の高いのが血液型性格判断である。世論調査やアンケート調査でも格段に高い関心が示されている。國學院大學二十一世紀COEプログラムでおこなった調査では、「血液型と性格とは関係がある」と回答した者が、二十代で五割近かった。

ところが、他の非科学的の番組と異なり、血液型を扱った番組はその後テレビから消えていくのである。

視聴者からの意見の受け皿として放送倫理・番組向上機構（以下、BPO）という組織が設けられている。BPO

は、放送番組による人権侵害を救済し、放送倫理の高揚に寄与することを目的としてNHKと民放が設立した第三者機関である。

BPOは二〇〇四年十二月に、視聴者からの意見をもとに血液型性格判断を扱うテレビ番組に関して検討をおこなひ、放送局に対して「血液型を扱う番組」に対する要望をおこなった。

BPOが放送局に対して要望をおこなったのは、視聴者からのクレームが多くなったためである。血液型と性格は本来関係がないにもかかわらず、番組のなかであたかもこの関係に科学的根拠があるかのように装うのはおかしい、といったものをはじめとして、学校や就職で血液型による差別意識が生じているという指摘が、要望書の提出に決定的な影響力をもったのだった。

BPOは放送各局に対して「自局の番組基準を遵守し、血液型によって人間の性格が規定されるという見方を助長することのないよう要望する。占い番組や霊感・霊能番組などの非科学的内容の取り扱いについて、青少年への配慮を一段と強められるよう要請したい」としたのだった。

BPOがこうした判断を下す際に根拠としたのは、民放連の放送基準である。放送基準「第八章 表現上の配慮」の五四条には「占い、運勢判断およびこれに類するものは、断定したり、無理に信じさせたりするような取り扱いはいない」と記されている。同条の解説として「現代人の良識から見て非科学的な迷信や、これに類する人相、手相、骨相、印相、家相、墓相、風水、運命・運勢鑑定、霊感、霊能等を取り上げる場合は、これを肯定的に取り扱わない」と記されている。この点が、放送内容と異なるものと判断されたのである。

その後テレビからは、潮が引くように血液型に関する番組が消えていった。結果的に見れば、民放はBPOの要望を受け入れたことになる。しかしBPOが要望していたのは、血液型だけでなく、「占い番組や霊感・霊能番組などの非科学的内容の取り扱い」であった。放送局は、この点では完全にBPOを無視したことになる。

#### ニセ科学からオカルトへ

不思議なことに、BPOの要望の直接の対象となったのは血液型性格判断だけだった。視聴者からのクレームが子どものいじめに関わるなど、具体的な被害が特定されやすかったのかもしれない。

ところで、科学的な装いをまとった非科学的番組が、従来の心靈番組や超能力番組へと変わっていくのは、それほど時間を要しないことだった。

例えば、氣功番組が増えていくなかで、氣で人間を倒す、オレンジジュースの糖度を変える、脳性まひを治したりガン細胞を破壊するといった内容の放送がオンエアされるようになる。同じ番組のなかで超能力者・清田益章による透視とスプーン曲げ、靈能者・下ヨシ子の子知が放送され(『奇跡体験!アンビリバボー 大みそか超能力スペシャル』CX、一九九八年十二月三十一日)、ユリ・ゲラーによる透視とテレパシー実験(『ビートたけしの世紀末バトル ノストラダムスの大予言決着戦』テレビ朝日、一九九八年十二月三十一日)が疑問を挟まれることなく放映される。靈能者・下ヨシ子による病氣治しがヒーリングとして紹介され(『奇跡体験!アンビリバボー ヒーリングと自然治療力の謎』CX、一九九九年一月二十一日)、精神科医が用いる性格分析テストと手相占いの結果が一致しているとしたり、同姓同名が不思議な運命をたどるとして科学的根拠があるかのような放送を、テレビ局は積極的に放送していく(『金曜テレビの星! 決定版! 史上最強の占いスペシャル 奇跡の手相』TBS、一九九九年四月二十三日)。

現在の時点に立って過去の経緯を眺めてみると、一九九八年が大きな転換期であったように思う。日本テレビ系列『特命リサーチ200X』の放送が九六年十月に開始されている。この番組は超能力や心靈現象など不可思議とされる現象をそのまま放映するのではなく、依頼による調査・報告という形式で進められた。しかしながら毎週、こうした番組を取り上げて高い視聴率を維持したことは、視聴者の間にこうした領域の関心が存在することを明らかにし、肯定的な番組が放送されるためのお膳立てをしたように思う。

その後、フジテレビ系列『奇跡体験!アンビリバボー』の放送が一九九七年十月に開始され、テレビ朝日系列『真相明一噂のファイル』も九八年四月に始まった。複数の定時番組が放送されることで、心靈や超能力は、テレビのコンテンツとして再び定位を占めることになる。

一九九八年以降、複数の定時番組と特別番組という構成が継続されるようになり、テレビは次々と新しいテーマと人物を登場させていった。靈媒師のジェームス・ヴァン・ブラグ、ジョー・マクモニグルの臨死体験、クリス・ロビンソンの未来予知、戸嶋正喜の氣功治療、氣功師・村松一夫、透視の梅田玲子、妙法山妙尊寺での降靈実験、現代の陰陽師・石田千尋、修験真言宗阿砂利・下ヨシ子の除靈、中国の超能力者・悟桑大使、氣功武術神意拳・太田光信、

宜保愛子の霊視、木村藤子の霊視、風水パワー、中国最強の超能力者・王姉妹、そして二〇〇一年四月には心霊写真や都市伝説をランキング形式で紹介する『USO!? ジャパン』がTBS系列で始まっている。

二〇〇二年になると、日本テレビ系列で『FBI超能力捜査官』シリーズが始まり、テレビ朝日系列の『奇跡の扉 TVのチカラ』が開始されている。この二つの番組は、複数の超能力者が登場し、その能力で犯罪事件や行方不明者を捜査するというものである。

まだまだ多くの霊能者や超能力者、占い師が登場する。読者のなかには、もう十分と思う方もいるだろう。しかし、もう十分と思うくらいにテレビはわれわれの眼前にこうした映像を映しつけてみせたのである。しかも私が列举しているのは、ほんの一部にすぎないのである。

二〇〇二年には、西塔恵の霊視、美少女サーシャ・ポルトシュキナの透視、サイキックパワーのノリーン・レニア、韓国最強の気功士・梁運河、霊能者・立原美幸、聖痕現象、マイナスイオン、霊能者・三由デコ、川井春水の除霊、エッタ・スミスの透視、和田良海の霊視、キャサリン・レイの透視など、読者のみなさんはどう思うだろうか。

## 2 大衆・テレビ・オカルト

江原啓之と細木数子の登場

そして二〇〇三年十月から、テレビ東京系列で『えぐら開運堂』が始まる。スピリチュアル・カウンセラーとして江原啓之がレギュラー出演し、若い女性の悩みを解決するという番組である。この番組は金曜日深夜の放送にもかかわらず人気が高かった。その後、江原啓之は、『江原啓之のスペシャル 天国からの手紙』（江原啓之が、いまは亡き人かと思いを感じ取り、そのメッセージを残された家族に伝える）、『国分太一・美輪明宏・江原啓之のオーラの泉』（江原啓之と美輪明宏がゲストとトークしながら、ゲストの「オーラ」や「守護霊」を霊視しアドバイスする）に出演するようになり、一躍人気者となった。

『江原啓之スペシャル 天国からの手紙』はフジテレビ系列で特別番組として始まり、二〇〇四年四月十八日の第一回放送から現在まで八回を教えている。『オーラの泉』は二〇〇五年四月四日にテレビ朝日系列で始まった。

他方で、江原啓之とともにテレビでの露出度が高いわめて高い細木数子が、いつごろからテレビに出はじめたのかはよくわからない。すでに一九九〇年以前に出演があったようだ。二〇〇〇年前後からブラウン管に登場しはじめたが、現在の細木ブームは、〇三年秋にTBS系列で放送された『史上最強の占いバトル細木数子vsウンナンー芸能人の運命メッタ斬りスペシャル』が始まりだろう。この特別番組はその後三回放送され（二〇〇四年一月九日、四月二日、七月四日）、〇四年八月にはレギュラー番組『ズバリ言うわよ！』に変わった。

現在放送されているもう一つのフジテレビ系列のレギュラー番組『幸せって何だっけ〜カズカズの宝話〜』が開始されたのは二〇〇四年十一月である。前身は特別番組『細木数子の人生ダメだし道場』で、〇四年四月七日に放送後、同様の特別番組が三度放送されたあとのレギュラー番組化であった。

こうして見てくると、冒頭で示した年末年始の非科学的番組の多さは、突然始まったものではないことがわかる。テレビ局は、オウム真理教事件に学び、タイトルを科学的であるかのようなカモフラージュを施し、超能力者に「FBI」と「捜査官」とつけることで、あるいは「スピリチュアル」という言葉を使うことで、そして占い師には「心照学研究者」という造語まで使って、バラエティ番組を作りつつけているのである。そして視聴者はそうした番組を享受している。テレビ番組の放送はスポンサーがなくては放送できないので、スポンサーも特別問題視することはないと考えているようだ。

## テレビ放送の開始と宗教映画

ここで時間をさかのぼって、テレビ放送開始からの状況を見ておくことにしたい。いつごろからこうした状況が生まれたのか、テレビ欄を執拗に追いかけてみたい。

日本でのテレビ放送は、一九五三年（昭和二十八年）二月一日のNHKによって始まる。同じ年の八月二十八日、初の民間放送局として日本テレビが開局する。

開局当時、NHKが放送していた宗教と関わる番組は、映画と年中行事であった。映画は記録映画で『お伊勢参

り』『大仏さまと子供たち』『お濕路さん』『法隆寺復元』『尼僧さん』などであった。他にも「社会探訪」として、『お札の誕生』『角切り祭』『中山の大荒行』などが放送されている。

日本テレビでも『良寛さん』『山祭り』『奈良の大仏』など内容的には変わらない。

年中行事は雑まつり、七夕、クリスマスなどで、特にクリスマスに関する番組が驚くほど多い。昭和三十年代に入ってから行事の実況中継がおこなわれるようになる。総持寺や浅草寺の節分会、神田明神の夏祭り、青山学院教会のクリスマススの礼拝風景、浅草寺の盂蘭盆会の法要、天神祭などが、ラジオの時と同じように実況放送されている。当時の生活のなかにあった行事がそのまま放送されていたということであって、特別な意図は感じられない。

一九六〇年（昭和三十五年）四月三日、日本テレビは日曜日朝七時二十分から二十五分間にわたって『宗教の時間』を開始した。『宗教の時間』は日本テレビの自主制作番組で、以後二〇〇一年三月まで放送された。「禅と実生活」「臨済宗妙心寺派」「伝教大師と御受戒」が当初の番組である。

『宗教の時間』は、日本テレビのオーナーだった正力松太郎が、戦後の価値観の混乱のなかで宗教情操の必要性を感じ、スポンサーなしの自主制作番組として始めたのだった。正力は肉親の命日には肉を断って袈裟姿で読経する熱心な浄土宗の信者だった。また正力は、一九六二年（昭和三十七年）に仏教諸派と協力して財団法人全国青少年教化協議会を設立した。現在も、仏教精神によって青少年の育成に尽力している個人・団体を表彰するために正力松太郎賞が授与されている。

同じ年の七月十日には、NHKが教育テレビで『宗教アワー』を開始している。

### 3 一九七四年の衝撃

ワイドショーの登場と非科学的番組の増加

日本でテレビ放送が大眾に浸透していくのは一九五五年（昭和三十年）になってのことである。五八年に一五パー

## 表2 超能力・UFO・心霊番組一覧 (1974年)

2月25日(月)	日本テレビ	11PM「奇跡の念力男ユリ・ゲラー来日!!」
3月7日(木)	日本テレビ	木曜スペシャル「脅威の超能力!!世紀の念力男ユリ・ゲラーが奇蹟を起こす!!」
3月21日(木)	NETテレビ	TOKYO午後3時「親子テレバシー競争」
3月25日(月)	NETテレビ	アフタヌーンショー「アッ!亡霊がフィルムに写った?」
4月4日(木)	日本テレビ	木曜スペシャル「特集!!脅威の超能力ユリ・ゲラーのすべて」
4月15日(月)	NETテレビ	アフタヌーンショー「生か死か!これが密教超能力」
4月16日(火)	NETテレビ	スタジオ23「超能力外人サーカス大会」
4月17日(水)~19日(金)	東京12チャンネル	世界ビクトリアアワー「超能力を持つ念力少年」
4月22日(月)	日本テレビ	紅白歌のベストテン「話題の念力少年・渋谷公会堂に初登場」
4月25日(木)	日本テレビ	木曜スペシャル「クレスキンの超能力の世界」
4月28日(日)	日本テレビ	テレビジョッキー「超能力少女登場」
5月23日(木)	日本テレビ	木曜スペシャル「クレスキンの超能力の世界No.2」
6月5日(水)	日本テレビ	特ダネ登場!「霊に子言させる女霊媒!!」
6月10日(月)	日本テレビ	11PM「挑戦!超能力は実在する」
6月19日(水)	日本テレビ	特ダネ登場!「怪奇特集」
6月26日(水)	NETテレビ	スタジオ23「超能力外人演技特集」
7月5日(金)	東京12チャンネル	金曜スペシャル「奇習悪魔弘の儀式」
7月12日(金)	東京12チャンネル	金曜スペシャル「恐怖!悪霊と怪奇の世界・あなたは一時間正視できるか」
7月25日(木)	フジテレビ	木曜大特集「秘 ノストラダムスの大子言」
7月29日(月)	日本テレビ	11PM「怪奇ナンセンス特報 超能力・幽霊・空飛ぶ円盤・結婚式に現れた幽霊」
8月1日(木)	日本テレビ	木曜スペシャル「怪奇大行進!恐怖の90分!フランケンシュタインからノストラダムスまで」
8月2日(金)	TBS	テレサG「真の子言かSFか?ノストラダムスの大子言」
8月5日(月)	日本テレビ	11PM「実録!大子言!あなたは生き残れるか」
8月7日(水)	日本テレビ	ワイドショー「あなたの知らない世界」
8月7日(水)	東京12チャンネル	世界ビクトリアアワー「狂演!悪魔殿の儀式」
8月21日(水)	日本テレビ	ワイドショー「わたしは本当に幽霊を見た」
8月28日(水)	日本テレビ	ワイドショー「わたしは本当に幽霊を見た」
9月18日(水)	日本テレビ	特ダネ!「怪奇秘法!!悪魔殿の祈符公開」
10月6日(日)	日本テレビ	TVジョッキー「超能力少女登場」

10月10日 (水)	日本テレビ	木曜スペシャル「現代の怪奇・追跡第3弾 宇宙人は地球に来ている」
11月1日 (金)	日本テレビ	フイドショー「モード写真に幽霊!」
11月1日 (金)	日本テレビ	フイドショー「あなたの知らない世界・私は本当に幽霊を見た!!」
11月14日 (水)	フジテレビ	3時のあなた「人生相談 霊感で悩む療病」
12月5日 (水)	日本テレビ	木曜スペシャル「世界の預言者・幽霊の大王自!!」
12月6日 (金)	日本テレビ	フイドショー「死闘する男にとりつくる老婆の霊」
12月20日 (金)	東京12チャンネル	金曜スペシャル「人類滅亡!? 幽霊のパニシング襲来」
12月21日 (土)	フジテレビ	ハッピー土曜日でず「オカルト霊活・ストーンと魔鏡」
12月23日 (月)	日本テレビ	11PM「超能力を実験する「霊風」全力で写真が撮れる!!」信じられない現象が起った…」
12月31日 (水)	日本テレビ	木曜スペシャル「曲げたの乗ったのUFOfオカルトツアー」

セントほどだったテレビの普及率は、六〇年には四五パーセント、六二年には六〇パーセントを超え、六四年には八〇パーセント近くまでになった。

一九六〇年代になって『アフタヌーンショー』（テレビ朝日、一九六五年）や『11PM』（日本テレビ、一九六五年）といったワイドショーが放送されるようになると、そのなかに霊媒や靈感、悪霊を扱った番組が見られるようになる。例えば『桂小金治アフタヌーンショー』（テレビ朝日）では「霊媒」（一九六七年七月十七日）、「靈魂を呼ぶ」（同年八月十六日）といったふうだし、『11PM』では「あなたは信じるのか 心靈の謎」（一九六八年二月十四日）といった具合である。

もっとも、ワイドショーだけを槍玉に挙げる必要はない。一九六〇年代に、急速に番組が増えていくときに、ドラマや劇、あるいはマンガのタイトルに、占い、幽霊、幽霊屋敷、悪霊、お化け、悪魔、世にも不思議な物語などの言葉が頻繁に見られるようになる。茶の間に娯楽として登場したテレビは、その四角い箱に魑魅魍魎を跋扈させはじめていた。

そして一九七三年十二月二十四日の『11PM』で「怪奇特集 宇宙人念力男そら飛ぶ円盤ユリゲラー」が生まれ、翌七四年二月二十五日の『11PM』に、超能力者としてユリ・ゲラーが登場したのをきっかけにして、超能力、幽霊、UFOなどを扱った番組が一気に増加したのだった。

一九七四年がこうした意味でどれほど画期的だったか一覽表を作って確認してみよう。一九七三年の年末に『11P

M』と『木曜スペシャル 現代の怪奇決定版！これが空飛ぶ円盤だ！』（日本テレビ）だけだった番組は翌年、表2のようになる。

テレビ局を見ていくと、日本テレビがこうした番組を牽引している様子がよくわかる。日本テレビは一方で『宗教の時間』を自主制作しながら、他方で超能力・心霊・UFO番組を積極的に放送してきたことになる。

一九七〇年代、そして現在

本論では、戦後の超能力、心霊、占いなどオカルトに分類される番組の盛衰を、テレビ番組から跡づけてみた。残念ながらこうした番組をいま再び見ることはできない。ましてやどのような影響力があったかを判断することも困難である。

それでも、「オカルトの普及はテレビの普及と軌を一にしていた」という金子毅の指摘は十分に首肯できるものである。

いろいろな検証しなければならないことがあり、単にテレビのオカルト番組を追いかけただけではわからないことがある。この一九七〇年代という時代が、大衆文化におけるオカルトの全盛期であるという指摘はすでになされてきたし、近年ではまとまった仕事として『オカルトの帝国』（青弓社）がある。特に吉田司雄「メディアと科学の〈聖戦〉——一九七四年の超能力論争」は、一九七四年のユリ・ゲラー問題を扱っており、本論と関わる部分が多い。詳細な資料の収集と考察は興味深い。

ところで、最近テレビ関係者から、UFOや超能力番組で視聴率をとれなくなった、という話を聞いた。近年はドラマや歌番組、スポーツに限らず、多くの視聴者に支持される番組が少ない。関心の多様化といってしまうえばそれまでだし、DVDやインターネットというメディアの多様化も指摘できるだろう。

垂れ流されてきた超能力番組や霊能力番組の真偽を問うこともせず、番組自体の問題性も検証されず、既知のものとして消費され尽くしたとすると、いったいわれわれの精神性はどこへ向かうのだろうか。ぬるま湯のようなスピリチュアリズムは、いつまで人々を癒すことができるのだろうか。

オスヴァルト・シュペンゲラーの『西洋の没落』をまねて、「知性は空洞化した民主主義とともに破壊され、経済

が思想（宗教、政治）を支配した末、日本の文明は二十一世紀で滅びる」といったら、言いすぎになるだろうか。

注

(1) この番組の放送の仕方に関して、コンノ・ケンイチが批判する内容の著作を刊行している（コンノ・ケンイチ『魔女狩りTV番組の真相——マジシャンによる透視少女つぶしのやり口』たまの新書、たま出版、一九九六年）。

(2) 金子毅「オカルト・ジャパン・シンドローム——裏から見た高度成長」、一柳廣孝編著『オカルトの帝国——1970年代の日本を読む』所収、青弓社、二〇〇六年、二四ページ